

## 高金利通貨およびオーストラリア・ドル、 ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、 ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア マンスリー・レポート



ブラジル



南アフリカ



メキシコ



オーストラリア



トルコ



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー

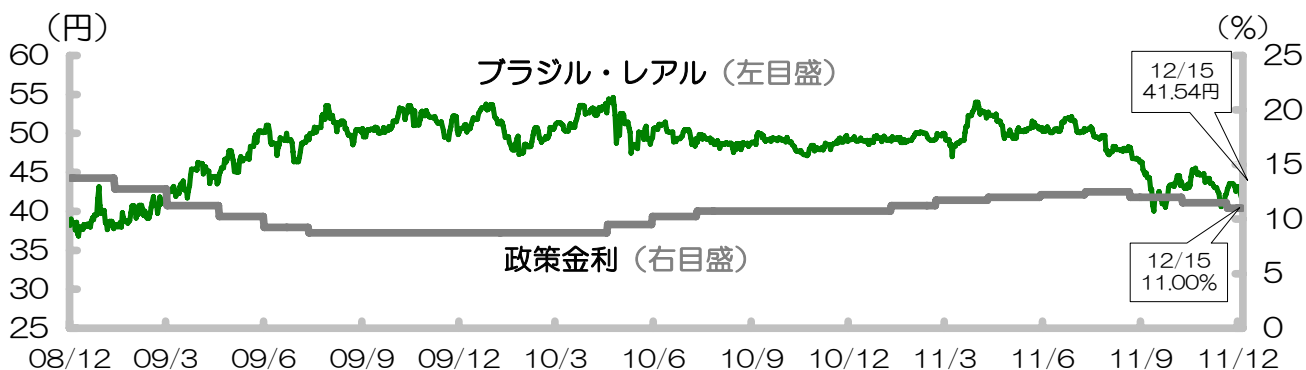


インドネシア

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## ブラジル



**【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアルは欧州問題、景気減速や利下げを受けて下落～**  
 ブラジルでは景気の減速傾向が続いています。ブラジル・レアルは欧州債務問題のユーロ圏周縁国から中核国への拡大を受けて下落した後、EU首脳会談への期待から反発しましたが、会談が金融安定化基金拡大や財政規律の一応の合意にとどまったことから上昇幅も限られました。政策金利は0.5%引き下げられました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルは悪材料の一方で好材料もあり、レンジ内での動きか～**  
 景気については煙り続ける欧州債務問題や世界景気の先行き不透明感などから、減速が続いています。追加利下げの可能性は依然高いとみっていますが、インフレ率が同ターゲットの目標値を僅かではありますが超える水準であるため小刻みに実施されるとみられます。ブラジル・レアルは、鉄鉱石など資源価格が軟調であること、利下げ基調にあることなどの弱気材料がある一方で、中国など金融緩和に転じた新興国経済、堅調な米国景気、金融取引税率の引き下げなど好材料もあり、レンジ内での動きが続くとみています。



## メキシコ



**【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは欧州債務問題の進展期待や失望などからもみ合い～**  
 メキシコでは海外就業者の送金額が伸び悩んでいますが、個人消費、製造業関連の経済指標はともに堅調となっています。政策金利は4.5%に据え置かれています。メキシコ・ペソは欧州債務問題の深刻化を受けて下落した後、EU首脳会談による同問題の進展期待や米国景気の底堅さから反発するなど、もみ合いとなりました。

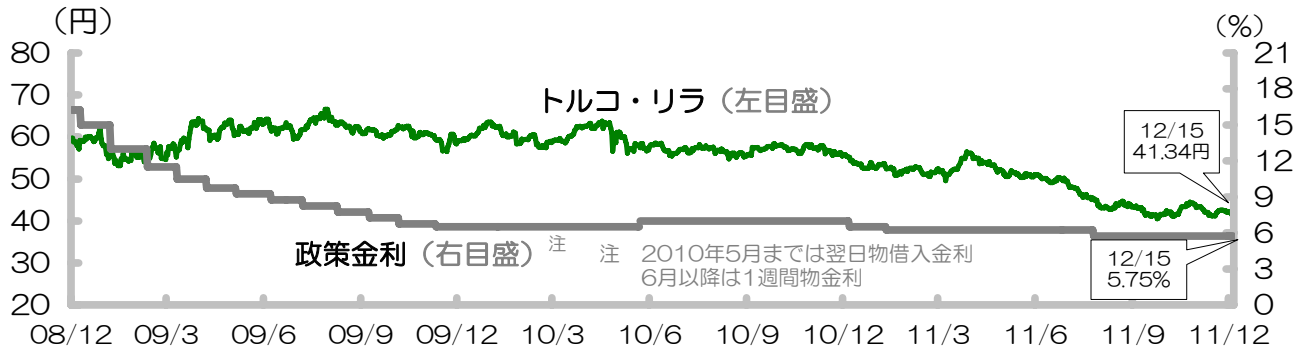
**【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは欧州債務問題、堅調な原油価格からレンジ相場か～**  
 景気については7～9月期の実質GDPが堅調だったことなどに加えて、物価も落ち着いており国内景気は底堅く推移しています。欧州景気や新興国の景気減速が懸念されますが、原油価格が欧州問題の一段の深刻化以前の7月の水準に戻していることなど、景気に急速な落ち込みはないとみています。政策金利は当面据え置かれるとみています。メキシコ・ペソは欧州債務問題への懸念は払拭できないものの、中東情勢から原油価格が底堅く推移するとみられ、レンジ内での動きになるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## トルコ

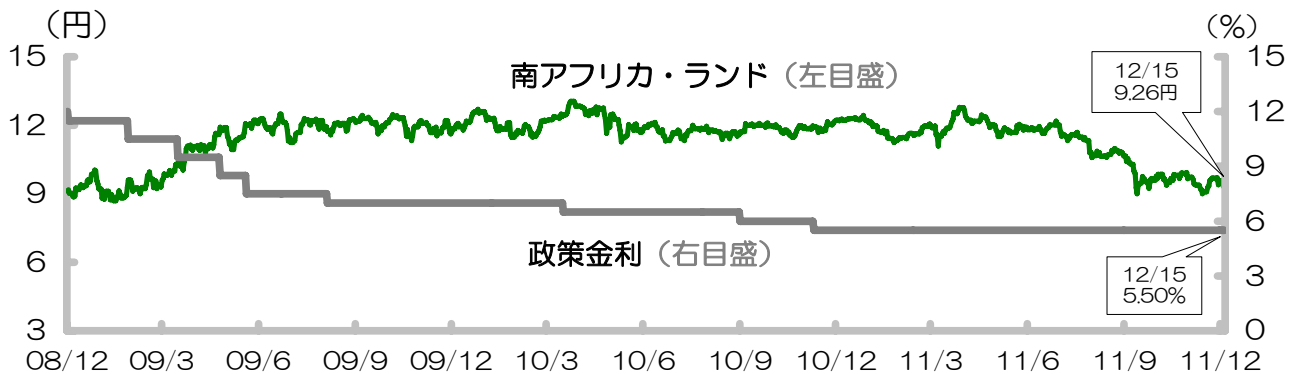


**【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは欧州債務問題の進展期待から上昇するもEU首脳会談後は反落～**  
 トルコでは個人消費関連の経済指標が幾分低下しましたが、製造業は好調を維持しています。消費者物価についてはコア指数の前年比上昇が続いています。政策金利は据え置かれましたが、翌日物貸出金利を高い水準で維持しており引き締め効果を浸透させています。トルコ・リラは株価の上昇、EU首脳会談による欧州債務問題の進展期待から上昇しましたが、同会談後反落し上値も限られました。

**【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは景気好調だが、燻り続ける欧州問題からレンジ内での動きか～**  
 景気については拡大基調にあるとみられます。不安視されていた貿易赤字については自国通貨安により拡大傾向が一服していますが、ユーロ圏向け輸出の減速が懸念されています。政策金利については、物価上昇への警戒から引き締め姿勢を維持するため据え置かれるとみています。トルコ・リラは好調な景気、金融引き締め姿勢、改善しつつある証券投資資金の流入などが好感される一方で、同国経済にとってマイナス要因となる原油価格の上昇やインフレ懸念などもありレンジ内での動きを予想しています。



## 南アフリカ



**【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドはEU首脳会談後に下落～**  
 南アフリカの政策金利は5.5%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、11月後半にイタリアおよびスペイン国債の利回りが急上昇したことやドイツ国債の入札不調などを受けて投資家のリスク回避姿勢の強まりから下げた後、EU首脳会談を前に欧州債務問題に関する協議の進展期待から上昇する場面がありましたが、同会談終了後は失望感に加えて金価格が軟調に推移したこともあり再び下落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内ながら弱含みで推移～**  
 景気については、7～9月期実質GDPは年率で+3.1%となりましたが、直近では個人消費に減速の兆しがみられ、製造業生産高が前月比でマイナスとなるなど、減速がみられます。こうした中、消費者物価指数は+6.1%（前年比）と、同国の目標インフレ率の上限（6%）を小幅に上回りましたが、景気に対する配慮から政策金利については当面据え置かれるとみています。南アフリカ・ランドは、欧州債務問題の協議動向や同国の景気見通しを受けて、レンジ内ながら弱含みで推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## オーストラリア



### 【足元の金融市場の動き】～ オーストラリア・ドルは欧州債務問題、利下げなどを受けて下落～

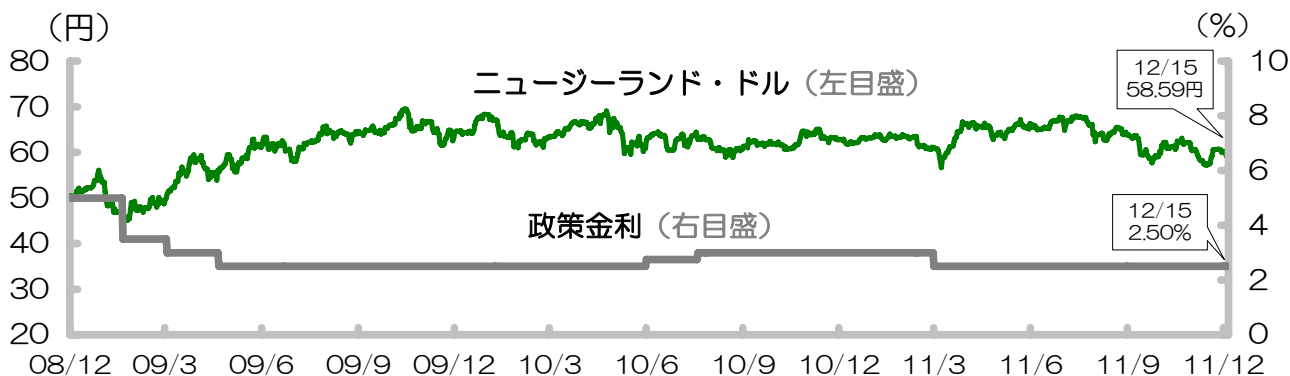
オーストラリアでは7～9月期の実質GDP成長率が予想を上回ったことなどから、景気の鈍化は一時的との見方が広がりました。ただ世界的な景気の先行き不透明感が強まっていることもあり、政策金利は0.25%引き下げられました。オーストラリア・ドルは下落した後、EU首脳会談による協議の進展期待から反発しましたが、その後は同会談への失望感からじり安となりました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～ オーストラリア・ドルは資源開発投資、景気動向などから底堅く推移か～

景気については、企業景況感は改善していますが、雇用、個人消費、住宅などに停滞感がみられます。政策金利についてはインフレ見通しが安定しており、追加利下げ観測が強まっています。中国向けの主要輸出品目である資源の契約価格が下落した影響が懸念されますが、金融緩和効果の浸透、活発とみられる資源開発投資などを受けて、来年の景気は上昇に向かうとの見方があります。オーストラリア・ドルは欧州債務問題への懸念はありますが、資源開発投資、景気動向などから底堅く推移するとみています。



## ニュージーランド



### 【足元の金融市場の動き】～ ニュージーランド・ドルは欧州債務問題や世界景気の動向を受けて下落～

ニュージーランドでは、中央銀行が発表した期待インフレ率は小幅の低下にとどまりました。政策金利は、自国景気の緩慢な回復、世界的な景気見通しの不透明感に対する配慮から据え置かれました。ニュージーランド・ドルは、総選挙における与党国民党の勝利による政権安定化への期待や欧州債務問題の進展期待、中国の金融緩和を好感したことなどから月末に反発する場面もありましたが、EU首脳会談後の失望感や中国の景気減速懸念などもあり下落しました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～ ニュージーランド・ドルは外部環境の影響を受けて上値の重い展開か～

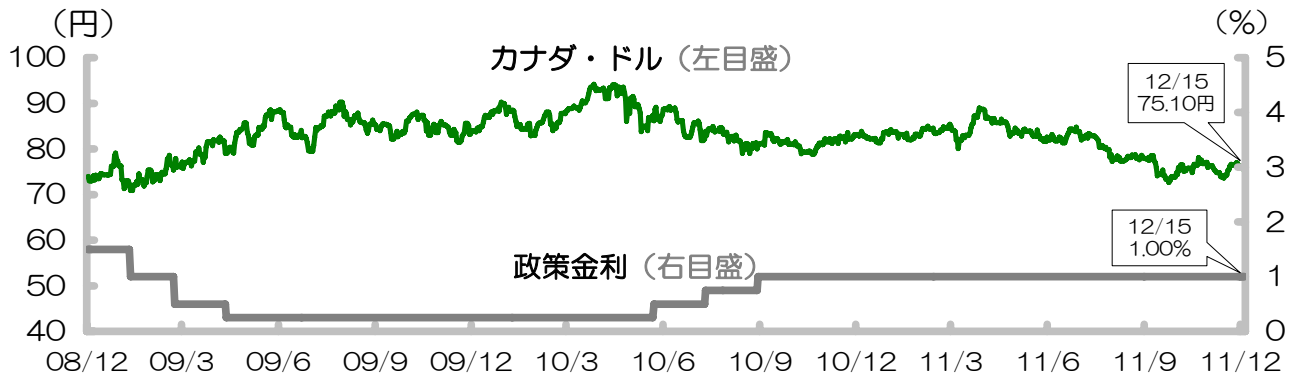
景気については、足元の企業景況感や消費者信頼感の世界景気の鈍化を受けてやや精彩を欠いていますが、大地震からの復興需要もあり緩やかに回復しています。政策金利については、国内景気は復興需要もあり比較的堅調とみられますが、金融政策会合の声明で将来の利上げを示唆する文言が削除されたことや外部環境の悪化から、当面現行の水準で据え置かれるとみています。ニュージーランド・ドルは、欧州債務問題の深刻化による投資家心理の悪化や世界景気の鈍化などから、上値の重い展開になるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## カナダ



**【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは米国景気で上昇するも、欧州債務問題の深刻化を受けて反落～**

カナダでは、エネルギーなどの輸出の急回復を背景に7～9月の実質GDPが前期比年率で+3.5%と市場予想を上回る良好な数値となりました。政策金利は世界景気の先行き不透明感から、据え置かれました。カナダ・ドルは、11月下旬には米国のクリスマス商戦への期待や日米欧の主要中央銀行によるドル資金供給の拡充策などを受けて上昇する場面もありましたが、米国の超党派委員会による財政赤字削減策が決裂したこと、EU首脳会談後は失望感などから下落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは堅調な米国景気と原油価格の上昇を受けて底堅い動きか～**

景気については、雇用統計が2カ月連続の悪化となるなど懸念は残りますが、11月のIvey購買部協会指数が市場予想を上回るなど、主要貿易先である米国の景気が底堅いこともあり、緩やかに回復を続けるとみられます。中央銀行は米国および国内の景気が堅調に推移しているとみていますが、政策金利については鈍化する世界景気の国内への悪影響を見極めるため据え置くとみています。カナダ・ドルは、欧州債務問題による下振れの可能性は残りますが、堅調な米国景気を背景に、底堅く推移するとみられます。



## ノルウェー



**【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネは欧州債務問題、EU首脳会談への失望感から下落～**

ノルウェーの政策金利は、欧州債務問題の同国景気への影響や自国通貨の対ユーロでの上昇圧力への配慮から1.75%に引き下げられました。ノルウェー・クローネの対円での動きは、ドイツ国債の入札不調などを受けて下げたユーロに連れ安した後、EU首脳会談を前に欧州債務問題に関する協議の進展期待から上昇する場面がありましたが、同会談終了後は失望感や利下げ幅が市場予想を上回ったこともあり再び下落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネはレンジ内ながら弱含みで推移～**

景気については、7～9月期実質GDP(原油、海運を除くメインランド、前期比)が+0.8%にとどまり、小売売上高、PMIが市場予想を下回ったことに加え、鉱工業生産が前月比でマイナスとなるなど、減速傾向が鮮明となっています。政策金利は、今後も緩やかとみられる同国の景気回復に加え、直近の利下げ幅が市場予想を上回る0.5%となったことから、当面は現行水準を維持するとみられます。ノルウェー・クローネは、欧州債務問題を巡る協議の動向、同国の景気や金利見通しを受けてレンジ内ながら弱含みで推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## インドネシア



**【足元の金融市場の動き】～インドネシア・ルピアは下落圧力がかかるも中央銀行の介入を受け、ほぼ横ばい～**  
 インドネシアでは、物価上昇率(コア・インフレーション)が前年比+4.44%と落ち着いており、消費者信頼感指数も高水準を維持しています。政策金利については前回まで2カ月連続で引き下げられていましたが、今回は据え置かれました。インドネシア・ルピアは、欧州債務問題による資本の流出や輸出の鈍化がマイナス材料となりましたが、中央銀行の金融市場安定化のための自国国債買いやドル売り介入の実施を受けて、底堅く推移しました。12月半ばには、大手格付会社がインドネシアの長期債格付を投資適格級に引き上げました。

**【当面の金利・為替の見通し】～インドネシア・ルピアはレンジ内での推移か～**  
 景気については、世界景気の鈍化による輸出の伸び悩みや商品価格の下落が懸念される一方、連続利下げによる国内需要の伸びが期待されることから、底堅く推移するとみています。政策金利については、堅調な国内景気や自国通貨安への懸念から据え置かれるとみられますが、世界景気の動向次第では追加利下げの可能性もあるとみています。インドネシア・ルピアは、欧州債務問題の深刻化による資本流出が懸念されますが、堅調な国内景気や中央銀行による通貨安定策への期待もあり、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

## 今月のトピック

### 【米国景気の回復は、新興国市場に朗報？】

米国では景気指標の改善がみられています。7～9月期実質GDP成長率は+2.0% (前期比年率)となりましたが、在庫投資減少の影響を除くと+3%台半ば程度だったとみられます。11月第4週木曜日(今年24日)の感謝祭が明けて、クリスマス商戦が始まりました。例年ではこの時期の小売売上高は年間売上上の40%程度になると言われおり、今後の景気動向を占う上でも重要な指標とみられます。調査会社の集計では、今年はインターネット販売が好調でブラック・フライデー(感謝祭翌日)。どの店も黒字になると言われている金曜日の意味の小売販売額は前年比約16%増(BIGリサーチ社調査)、サイバー・マンデー(翌週月曜日。休み明けにビジネスマンの職場からのオンライン・ショッピングが急増するとされている月曜日の意味)も同約22%増(コムスコア社調査)と絶好調でした。ICSC(国際ショッピングセンター評議会)は、高級ブランド店の既存店売上高が11～12月に7.5%伸びると予想しています。民間消費支出はGDP構成比の約70%を占めており、10～12月期の実質GDP成長率は+3%程度になるとみられます。シティグループ経済サプライズ指数(米国)(発表された経済指標が事前予想を上回ったかどうかを集計)は、6月につけた-117.2から直近では+71.9と大きく改善しており、米国株式相場も10月上旬以降は大幅に反発しています。今後、欧州債務問題によるリスク回避の動きが一巡すれば、新興国・資源国では株式相場が米国に追随して上昇し、為替相場の安定が期待されます。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。